

お客様からのコメント

沢山のコメント
ありがとうございます
ございます。



古美術は老人の道楽的だと思っていましたが、スタッフさんの明るい笑顔と何よりも歴史が好きで、チャレンジ精神が通信からうかがわれました。歴史を通した古美術に明るい日差しを感じました。(W様)

W様ありがとうございます!
これからも日本のよき文化・歴史、古美術品を全力で発信していきます。どうぞ引き続き「届けますっ!大和魂」をお楽しみ下さいませ。

「ハナエモンの日本の歴史にタ〜イムスリップ!」にて小学校に授業を行っている事を初めて知り、驚きました。子供達がこの授業をきっかけに歴史や武具に興味を持ってくれるといいですね!

TAC様ありがとうございます!(TAC様)
興味津々で、興奮状態でしたよ。TAC様のおっしゃる通り、日本の歴史・良き文化を少しでも次の時代に紡いでいって欲しいなと思います。

研修旅行 in 愛媛・松山城
松山城の規模が分かりにくいので、全体を写した写真が一枚欲しいと思いました。地元紹介等の記事はなくてもいいかなと思いました。刀剣女子ファンが多くなっているので、刃の写真もあったらいいと思います。(しんちゃん様)

しんちゃん様ありがとうございます!
もっと読みやすい記事にしていけるよう精進して参ります。今後ともコメントよろしくお願いたします。
※刀剣の記事について※
ぜひ今までのニュースレター(Vol.28, Vol.30~45)もご覧ください

研修旅行 in 愛媛・松山城 楽しく読ませていただきました。こんな研修旅行なら何時でもOKですよ!これからも楽しく学べる研修旅行をお願いします。(みのたん様)

みのたん様ありがとうございます!
その通りです!本当に楽しくて、何時でも行きたいと思っています!次回の研修旅行もしっかり学び、しっかりと楽しんできたいと思います。
オススメの場所がありましたら、ぜひ教えてください!

届けますっ!大和魂 2024年4月 Vol.59

经营理念

有限会社大名は「届けますっ!大和魂」を合言葉に日本の歴史、古美術を発信し、貴方(お客様)の趣味を応援するタイムマシーン企業を目指します

尾道七佛めぐりに行って来ました!!



こんにちは。中堀明美です。入学やお花見の季節になりましたね。皆様、四月八日は何の日かご存じですか?なんと、お釈迦様のお誕生日なんです!!
私は、生まれも育ちも古寺で有名な尾道ですが実は古寺巡りをしたことがありません。そこで運動も兼ね、歩いて回る「西周りのコース」に行きました。

- ### 御参拝の仕方
- 一. 山門で一礼しましょう
 - 二. 手水舎で身を清めます
 - 三. ろうそく・線香をお供えます
 - 四. お賽銭を納めましょう
 - 五. 静かに合掌して、お祈りをします
 - 六. ご朱印をいただきます
 - 七. 感謝の心を持ち、お寺の魅力を探してみましょう
 - 八. 山門を出る時に一礼します

※現在では誰でも簡単にご朱印を頂く事が出来ませんが観光地などの記念スタンプとは違い、ご本尊様の分身なので粗末にせず、ずっと大切に保管しましょう。

尾道七佛めぐり
<https://shichibutsu.jp/>

1 浄土寺

本堂前にパワースポットと言われる『願掛け石』があります。願い事をして回すと願いが叶うといわれています。重くて全然回せない私。願いも重すぎるのかな?(笑)中学生の息子(大志)はすんなりと回していました!成長したなあ...と感じました。

616年、聖徳太子により創建と伝えられています。また室町幕府を開いた足利尊氏が戦勝祈願に訪れたお寺でもあり、仕事や就職活動、勝負事の御利益があるそうです。寺内には足利尊氏の供養塔もあります。本堂、多宝塔と共に国宝に指定されています。ハナエモンは小学生時代に写生大会で多宝塔を描き入選を頂きました!

2 海龍寺

人形浄瑠璃(人形劇)・文楽の臺があり手・指を使う文楽にちなみ、お経の塚を撫でながら念じると、技芸上達するといわれています。そして五色の紐は観音様と繋がっているの、とても近くに感じられるといわれています。

1245年、創建と伝えられていて、江戸時代に海龍寺と寺の名を改められました。ここは何と言っても鎖岩です。四国石鎚山を模して作られた「くさり山」を小学生時代に何回登ったことでしょうか。是非一度、ご体験ください!登りきったら、気持ちいい景色が待ってますよ。

3 西國寺

二王様のたくましく健康な脚にあやからうと、仁王門には大わら草履をはじめ願立ての証で大小のわら草履が奉納されています。スポーツをされる方や、足腰の悪い方のお参りがたえないそうです。



百八段あるといわれる階段。お仏様に会えるまでの修行です(汗)

天平年間(729-749年)に、行基により創建と伝えられています。1066年に本堂が炎上するも、1081年に白河天皇の勅命により再建されたそうです。仁王門の大草履は、一見の価値があります。

新春 お年玉プレゼント

正解者の中から抽選で、下記の方が当選されました!

10等賞 筋膜リリースガン トータルボディケア MINI

18等賞 畳ヨガマット

質問: ある人が風邪にかかりました。その人がその次にかかったのは何でしょうか?
答えは... 医者 でした!

みのたん様 TAC様
沢山のご応募ありがとうございました

今号の大和魂はいかがでしたか? 皆様のご意見・ご感想どしどしお寄せください。お待ちしております。 件名:ニュースレター返信と入力して送信して下さい。

最新情報はホームページ <https://daimyou.com/>
 有限会社 大名 広島県尾道市栗原町2-1 3F Eメール sengoku-54jp@hi.enjoy.ne.jp
 TEL.0848-29-3936 FAX.0848-29-3937

4 大山寺

日を決めてお願い事をすれば叶えてくれるという「日限地蔵尊」(別名:重軽地蔵)のご利益を求めて合格祈願に訪れる受験生が多いそうです。



真言宗

21世紀の新三猿像発見!!

「見ざる、言わざる、聞かざる」とは真逆。「見てご猿、言うてご猿、聞いてご猿」世の中の正しいことを「よく見よう」「よく言おう」「よく聞こう」という願いがこもっているそうです!



延久年間(1069-1074年)に創建と伝えられ、学問の神様・菅原道真にゆかりがあります。太宰府に流される途中、尾道に寄った道真がお世話になった尾道の人に着ている袖をお礼に渡したことが由来で、同じ敷地内に御袖天満宮が建立されたそうです。

祈願願格

6 天寧寺

本堂入って左に祀られている寶頭盧さんは、地元の方に「さすり仏さん」と慕われており、自分が患っている場所と同じ場所を撫でると治ると言われており、病氣平癒祈願の寺といわれています。



手を合わせて、念じながら悪いところをさすります。頭が賢くなるようにだと思いますが...娘は頭をさすっていました...

曹洞宗

平病癒氣

1367年、普明国師により創建されたと伝えられています。室町幕府二代将軍の足利義詮によって建立された三重塔(海雲塔)越しの尾道の風景がよく使われています。見所の一つである五百羅漢像は526体あり、江戸時代末期から明治初期の約60年間で寄進された物だそうです。ハナエモンの菩提寺でもあります。



七か所すべて周り、ついに全ての御朱印を頂戴しました!

生まれ育った尾道でしたが、知らない事も多く、凄く楽しかったです。思春期真っ只中の息子。普段聞けない、学校や友達のことを話しながら歩きました。家族の絆も深まった七佛巡りになりました。

お寺で色紙を購入できます



5 千光寺

縁結び・交通安全・病氣平癒・家内安全・ぼけ防止祈願...などなど「開運厄除・諸願成就」のご利益があるそうです。



真言宗

さんじゅうさんかんのんどう

「三十三観音堂・カチカチ数珠」

幸せを念じながらゆっくりと引きます。珠が上から落ちてカチカチと音がします。この音で苦しみの根源である煩惱を打ち消して、観音様の御守護が頂けると言われています。



806年、弘法大師により創建されたと伝えられています。33年に一度しか御開帳されない本尊は、聖徳太子の御作と伝えられています。次回の御開帳は、2045年だそうです。是非、拝見したいものです。

厄開除運

7 持光寺

とば鳥羽法皇の命により、愛する御子・近衛天皇のご息災を祈願して作られた国宝・絹本著色普賢延命像。一度拝むと寿命が延びるといわれています。持光寺裏山の日輪山より切り出された36枚の花崗岩で出来た大石門。門をくぐると、巨石より発するパワーにより寿命増長されるといわれています。



大石門



浄土宗

祈延願命

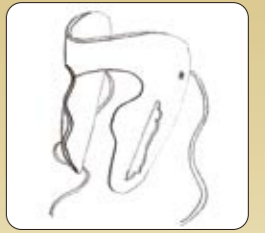
承和年間(834-848年)、慈覚大師により創建されたと伝えられています。創建当初は天台宗の寺として創建されましたが、1832年に浄土宗の寺に中興改宗されたそうです。にぎり仏体験という自分だけの仏様を作る体験が出来ます。尾道に来られた際は是非、体験してみてください。

語ります

大和魂

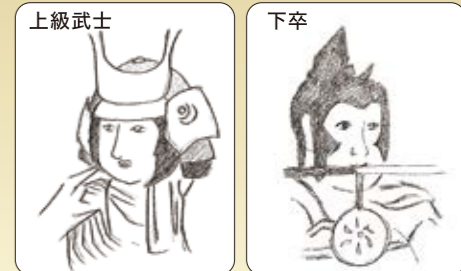
こんにちは。島谷貴子です。今号より「面具」について語らせていただきます。皆さまご存知の通り、顔を守る為の防具ですが、古くはいつからあり、どんな変化をしていったのでしょうか?

いつから? 面具で最も古くから用いられていたのは半首でした。始まりは、「保元の乱」で源為朝が着用していたことから、平安時代後期の始まりと言われていいます。

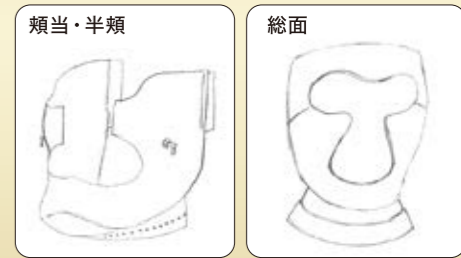


半首とは? 飛来してきた弓矢などから顔面を守る為の防具のことです。鞆がなく顔(首)を、半分覆い守るという意味で、「はつつぶり、はつぶり」とも呼ばれています。

上級武士は兜と併用し、兜を着用できない下卒(下級の兵卒)も顔に付けていたとされ、平安時代から鎌倉時代にかけて盛んに利用されました。黒漆塗のものが多く、中には頬に紋様を付けたり、絵巻を貼ったものもあったとされています。南北朝時代になると、頬当が現れ段々と廃れていきました。



頬当とは? 半首を逆さにした形で、顎から両頬にかけて覆う防具のことで、のちに半頬と呼ばれるようになります。鎌倉時代後期から南北朝時代に、白兵戦を主流とした戦が主流となったため流行していきました。さらに半首と半頬を合わせ、顔全体を完全に守る為の面具を「総面」と呼び、南北朝時代に出来たとされています。しかし着用すると不便であるため、実用的にはさほど用いられることはなかったそうです。室町時代に入ると、便利で実用的な猿頬、燕頬、越中頬等の種類が生じます。



猿頬

特徴 猿の面のように見えることから付けられた。「小田頬」とも「宇多頬」ともよばれ、最も実用的で便利であったとされています。

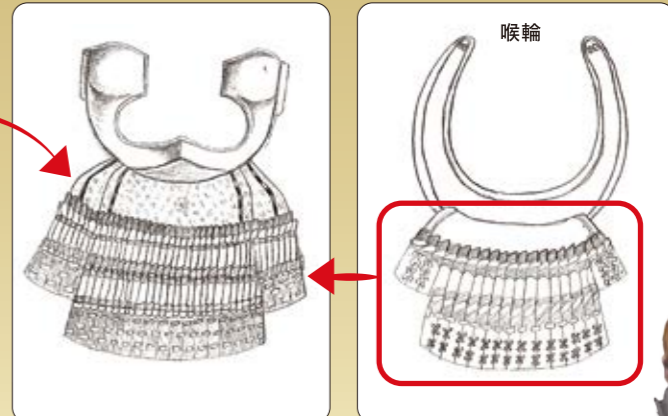
燕頬

特徴 燕が飛んでいる形に似ていることから付けられた。猿頬よりもコンパクトな作りとされています。

越中頬

特徴 頬は覆わず、顎に当てて使用されることが多かったことから「顎当」とも呼ばれ、一番小さい半頬とされています。

そして室町末期頃からは、喉部分を守る為の「垂」(たれ/すが)を顎の下につけたものも出始めました。顎下から胸の胸板までの隙間を守る為、喉輪の垂の形式が使われるようになります。革製のものだったものから、脆くちぎれやすい為、鉄製の垂に変化していきました。守る部分が増え、目鼻口の露出も無くすよう、半頬、総面共に鼻・口をも覆う「目の下頬」が流行していきなりました。



時代や戦で形を変え、実用的で便利に改良されていく面具。金具一つ一つにも意味があることが分かりました。次号では、「目の下頬」について語らせていただきます。

